

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成20年度 第4回
開催日時	平成20年11月12日（水曜日） 午後7時から9時10分まで
開催場所	イングビル 第4会議室
出席者	委員：池田委員、青木委員、荒井委員、蚊野委員、虎頭委員、高木委員、 角田委員、富田委員、中村委員、西山委員、北條委員、渡辺委員 事務局：飯島課長、寺嶋係長、岩田主査、インテージ2名 欠席：なし 傍聴：なし
議題	1 第3回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認 2 19年度実績評価に対する各グループの確認状況等 3 その他 1. 次回 12月10日（水曜日）午後7時～9時 田無庁舎1階102会議室
会議資料の 名称	資料No.1 第3回西東京市男女平等参画推進委員会会議録 資料No.2 教育相談センター資料 資料No.3 前回の確認事項
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>委員長： まだ揃っていないが、時間になったので始める。</p> <p><u>1 第3回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認</u></p> <p>委員長： まず前回の会議録の確認をする。修正等は何かあるか。 何もなければ、会議録は承認とする。</p> <p><u>2 19年度実績評価に対する各グループの確認状況等</u></p> <p>委員長：</p>	

本日の議題に入る。事業の評価をグループで進める作業がメインになる。その他、事務局から説明がある。

事務局：

修正が1点ある。本日の次第2を「平成19年度実績評価に対する各グループの確認状況等」とする。

前回計画案としてまとめていただいたものを、関係課に配布して内容のチェックを行っている。次回資料等あれば用意する。

パブリックコメントの実施を12月に1ヶ月間程度予定している。他にも福祉計画や生涯学習計画など、それぞれの分野で議論が行われており、同じ時期に一緒に行う予定である。またその期間内に市民説明会を行う予定である。委員の皆さんに出席いただけるのであれば日程調整させていただく。

西東京市の教育相談状況について、東京都が照会をかけた相談所の実態調査の速報版として、26市と町村の状況をまとめたものがある。人員配置やセンターの設置状況等が入っている。これにあわせて教育相談のセンター長から簡単な市の取組のメモもあるので後ほど確認お願いしたい。

もう1点、区分の「新規・継続・拡充」の表現案として記号化した。新規は感嘆符、拡充は斜め上矢印、継続は横ばいの矢印とした。トップページにコメントをつける。定義がはっきりすれば記号でも表記可能と思うが、ご意見頂きたい。

委員長：

まず、事業の区分を図示することについて意見あるか。

委員：

漢字ばかりが並んでいるよりよい。ただ、パッと開いて見たとき意味がわからないのではないか。

事務局：

ページの隅に脚注をつけるなど、簡単な「新規・継続・拡充」の説明をつける。

委員長：

「配置のバランス等は簡易デザイン時に調整」とはどういう意味か。

事務局：

位置が多少ずれているので入稿の際に調整する予定である。

委員長：

記号の説明を始めに入れることと、途中で見た人も理解できるようにしてほしい。

委員：

各項目に「太字は重点的な取り組み」という説明があるが、それと同じように入れられるか。また拡充の記号だが、上両方に広がるイメージのものはないのか。

事務局：

工夫してみる。

19年度までエガールを年2～3回出していたが、編集委員に苦勞をかけたことと、行き詰まっていたことから、パリテの中で、どのような情報をどのようなテーマで市民に訴えかけていくかを委員会で検討し、業者にレイアウトから印刷まで委託することにした。第1回の見本が出来たので回覧する。タイトルは「パリテ」で、来年度から定期的に発行の予定である。

委員：

ウェブ掲載は契約しているのか。

事務局：

契約はしていないが、データがあれば可能である。15,000部印刷予定だ。

委員：

フルカラーになり予算は多くなったのではないか。

事務局：

前年度よりは予算がかかる。今までは市民の方で作っていたがご苦勞をかけたので業者をお願いした。ただし市民の声や市内企業の声は、業者では拾いづらいので、運営委員会からアプローチする予定である。

委員長：

ウェブ掲載も検討いただきたい。教育相談の実態についてどうか。

事務局：

教育相談のセンター長からのメモもお配りした。当市の特徴は、事務員は課長のみであり、事務補助の係は臨床心理士の資格を持っている。都の嘱託員、臨時職員も含め、人数はかなり採用している。今年も東京都の新規事業を積極的に取りにいき、26市の中で西東京市だけが行う事業もある。

委員長：

事務局からの提案・報告を終わる。

19年度の事業評価で、担当課の記入が空欄だったところからの提出はあったのか。

事務局：

現状は無い。

委員長：

では、現状のままグループごとに打ち合わせをお願いします。

事務局：

次回も検討時間を取る。次回、計画はパブリックコメント中で議論は無い。年明けに

計画の最終の作りこみに入る。

委員：

先に共通事項の確認を行い、残った時間をグループ作業としたらどうか。

事務局：

今回、確認事項は無い。グループごとの整理と意見交換をお願いします。

委員長：

8時までグループ作業を行うこととする。

(グループ作業)

委員長：

各グループで評価を行いながら気がついたこと、問題点などを挙げていただき、全体で調整したい。まず、学びのグループよりお願いします。

委員：

評価の内容を担当者同士で確認したが、まだ詰めていないところもあり、近日中に再度確認作業を行い、次回の会議には学びグループとしての案を提出する。

委員長：

次、家庭のグループお願いします。

委員：

子育て支援と高齢者支援に関しては、作成されたガイドブック等の改訂版を入手し、どこが変わったか調べた。介護は担当部署が移管されたため空欄があった。また、今評価をしているのは19年度の取り組みだが、20年4月からについてコメントいただいても評価できない。

事務局：

担当課には20年度に取組をスタートしたという事は、19年度には議論をしているはずであり、空欄部分を実施までの過程として埋め、きっかけづくりがあって20年度があるという表現をしないと伝わらないということを伝えた。

委員長：

空欄のままでは評価ができない。

事務局：

移管ではなく統合である。課が何処かへ行ってしまったわけではない。

委員長：

移管された事業に関して空欄では評価ができないということで、書き込みがされたら

19年度の内容で評価することとする。

次、職場グループをお願いします。

委員：

18日午前中に所管へヒヤリングに伺う予定である。担当所管に事業評価でどのランクか自己評価を伺いたいと思う。また、目標と施策の内容、成果目標がずれて書かれているのもあり、内容を確認したい。男性の育児休業の取得は、一人おり、冊子も作られ、成果を評価したいが、目標が5%であり、一人の取得者で6.5%となり、目標達成である。前年度は「5%という目標は低すぎるのもう少し上げてほしい」とコメントを書いたが、今年も5%のままであるので今年は評点を下げる予定である。

委員長：

まちづくりグループだが、この領域は、大半は審議会や委員会の女性の登用比率が目標になっているところである。昨年度も担当課が男性何人・女性何人と掲げているだけで、達成成果も課題も事業評価も何も書かないところかなりあり、それでもこちらが評価を与えていたが、今年は担当課としての事業評価を入れてほしいとお願いした。人数が達成できているから書かなくていいではなく、メンバーの交代があるのかなど、計画も何年も重なっているので、単純な比率だけで何も書かないというのは評価しづらい。まちづくりは空欄箇所がたくさんあり、早急に空欄を埋めて戻していただきたい。もう一つ、まちづくりの後半で、例えば「9地域活動への男女平等参画促進(1)地域活動等への男性の参加拡大」など、関係各課とあるところは見事に白紙であり、去年も同様である。関係各課は何のために挙げたのか、主担当はどこなのか、評価はどうかを確認してほしい。

さらに、建物など専門的内容に関わる審議会で、「専門的に関わるので公募には馴染まない」と書かれているが、必ずしも専門家でなければならぬわけではなく、一般公募で、市民で関心がある人を入れていくことも可能な場合もある。次からの評価に関わるのかも知れない。踏み込んだ内容や評価を行ってほしいところがある。

まちづくりの最後に出てくる「誰でもトイレ」のことがあるが、これはどこにあるのか。

委員：

田無駅北口のトイレのことである。

委員：

人権グループでは、評価が見合わない部分について話し合った。評価を4年行っているが、書かない課は全然書かず、書いたところはフォーマットが出来ているのか数字を入れ替えた、もしくは末尾を発展的な言葉に入れ替えたものになっている。厳しいかも知れないが、ずっと動きがない場合には、評価を下げるところもある。具体例で言うと、「人権を守る男女平等の(1)相談の充実」の最後、「相談を周知するパンフレットの作成・配布」で「ホームページ等に掲載しているので、経費をかけて作成する必要がなくなった」とあり、18年度に達成済みとあり、ずっとこのままを踏襲している。それに対して「パソコンの無い人はどうするのか、それで情報はいくのか」と3年くらい前から繰り返して評価で指摘をしているが全然変わらない。私たちが書いたコメントが

届いているのか、むなしさを感じる。また、事業が移管したため書き込みが不十分なところがいくつかある。さらに、関係各課という箇所は人権にもあるが、関係各課という抽象的な意味合いは止めようと話し合った記憶がある。いかがか。

成果目標と達成成果のずれだが、女性専門医療の充実に向けた取り組みで、「女性専門外来設置に向けた医療機関への働きかけ」のところ、これに対する執行状況、具体的な課題として「女性医師が何人」という答えになっているが、専門外来を設置したいという医療の動きと女性医師が何人いるかという話は、要望しているところが違う。このように、いくつか、施策の内容と担当各課が捉えている内容にずれがあると感じた。

委員：

去年と全く同文というところが幾つかあり、ちょっとだけ変えたところもある。また、委員会での評価について、かなりのところが全く読んでいないようである。去年要望した、具体的に報告してほしいなど、注文したところがあるが、それに殆ど答えていないところが多い。

委員長：

他のグループでも似たところがある。まちづくりも19年度の評価をしたが、16年から続いており、どう評価が変わってきているかチェック・検討したが、この流れの中で、担当課がどのように評価され、それに対して、どう変わってきたか、時間軸での追跡も持ってほしいと思う。今年度の評価を行い、課長たちと含めて検討会を持つときに言いたい。以上、他にないか。

では、未だ評価が入っていないところは貰ってほしい。きちんとした担当課の評価をいただきたいと伝えてほしい。

事務局：

まちづくりに限らずいただく。関係各課も見れば自分のところと認識できるところがあるはずなので、今のところはそのままとしたい。

委員長：

人権のところの関係各課は、全く何も書いていない。それは意味がない。

委員：

全部Dとした。

委員長：

目標も事業も何も書いていない関係各課もある。何も書いていないものはDとする。

委員：

去年もまちづくりで何も書いていないのはDとした。

委員長：

そのあたりのコメントは誰に向けて届くのか、確認いただきたい。

委員：

まちづくり「活動しやすい環境の整備」で「公共施設の利用時間帯の見直し検討」があり、「消費者センターの開館及び利用時間の拡充」が成果目標だが、消費者センターだけが公共施設なのか。

事務局：

今回は消費者センターだけかも知れない。

委員長：

他にないか。

この委員会で評価したものが、今年の担当者は去年の評価を見ながら記入することはないのか。

事務局：

去年の評価は見ていると思う。評価結果は、紙やメールで送付しているが、庁内で職員がいつでも情報を共有できるしくみが必要だと感じている。

委員長：

20年度の事業評価を行う際には、前年度の委員会での評価を見てほしい。次回には、ほぼ完成した評価となるのか。

事務局：

担当課から出されたものを整理してお見せできるようにしたい。コメントが弱いところはなるべく修正するよう伝える。

委員長：

次回はそれぞれのグループの評価とコメント、18年度との評価の比較、若干の比較なども入れ、各グループの中での移り変わりも焦点化して提出していただく。また、重点政策が重点政策となっているかについて、評価のときに併せて入れる。

委員：

まとめたものを事務局に送ってよいか。

委員長：

取り敢えずコメントと評価が入ったものを生活文化課に送る。

次回が12月10日であるので、11月末までを締め切りとする。

委員：

事業評価は事務局に送るが、それぞれの担当部署での評価の変化は、口頭でよいのか。

委員長：

口頭でよい。重点施策がちゃんと重点施策として取り組まれているかもチェックをお

願います。

委員：

パブリックコメントはどのような方法で行うのか。

事務局：

12月頭から下旬にかけ、市民の意見募集期間を設け、計画原案に対しそれぞれの角度から意見をいただく。これは市民参加条例に基づいた手続きである。ホームページに全体を掲載し情報発信すると、計画の素案を冊子にし、庁舎やパリテに置いて閲覧できるようにする。また不足の部分もあるので、12月の期間中に計画素案の説明会を1~2回設けたい。前は委員の皆さんが主体となって行ったと聞いたが、日程を詰めさせてほしい。委員長中心でできるだけ多く集まれる日や、保谷と田無を1日で行う方法、休日と平日とするかなど、臨機応変に対応したい。

委員長：

市民は来るのか。

委員：

来るだろう。前は男女平等推進に批判的な人たちや推進に関心を持っている人などいろいろな人が来た。今回はセンターもオープンしたので、それに関わった人も来るだろう。

事務局：

日程は、12月10日前後になると思う。

計画によってはパブリックコメント前に説明会を行うところもあるが、情報発信の前に行ってもなかなか意見がいただけないので、同じ期間に行うほうがよい。委員のご出席が難しければ行政側主導で行う。反対派の意見を聞くことも大事であり、行政側として行う必要がある。

委員長：

委員の中で参加できる日を決めるのは難しいので、行政側で設定いただき、そこに出席可能な人が出席するとしてはどうか。

事務局：

会場を押さえたい。最低、夜に1回は行わないとならない。

委員長：

夜を入れるのであれば、10日の週より17日水曜日の夜なら出席できる人が多いのではないかと。昼は仕事している人が多い。

事務局：

前は平日の夜と、土曜日の午後で開催した。

委員：

全員参加ではないが、計画の説明はしなくてはならないので、今回は各グループから代表を出し、5～7人が出席した。

事務局：

今回は計画の説明も委員会で行ったのか。委員会主体となると、各グループの委員が出席できる日を設定しなくてはならない。

委員長：

17日の夜はよいか。昼は土曜が候補だが、土曜に出られる人はいるか。

委員：

13日ではどうか。

委員長：

では、13日土曜と17日水曜の夜で設定をお願いしたい。委員会からの説明というより、行政主導で行ってほしいがそれでいいか。各委員は出席できる人が、関係質問が出た場合に答えることとしたい。

委員：

どのスタンスで説明会を開くかによって違ってくるのではないか。行政側が行政の計画として説明会を行うのか、それとも、この委員会の総意として、答申前に説明するのか。そうであれば、委員会主体での説明会となると思う。

事務局：

パブリックコメントを行うのは行政側の手続きの一つであるが、そこでいただいた意見については、1月に市民の意見として示さなければならない。それを採用するか否かはこちらの選択で、採用しない意見については理由を説明しなければならない。市民説明会も同様に、委員にご参加いただかないと分からないものもあるので、ぜひご参加いただきたい。

委員長：

委員会主導で行うとなると、委員が出られないと開催が出来ない。

事務局：

女性でお子さんがいる人は夜の参加は難しい。参加しやすい時間を選びたい。

委員長：

では、行政主導で行い、そこで出た意見を委員会にフィードバックしていただき、再度審議するという形でよいか。

市民説明会の時間と場所が決定すれば出席できる委員もはっきりすると思う。

これで終わりとする。

閉会